

式 辞

季節はめぐり今年も別れのときを迎えました。

今日、私はこの体育館いっぱい、すべての在校生、皆さんのご家族、そして来賓をお迎えし盛大な式典を開きたかった。

いま、それはかないません。それでもこうして教職員がそろって心からの祝意をもって、皆さんを送り出せることをありがたく思います。

皆さんはこの学校にとって、特別な学年です。

359 名の同期生が、一堂に会するのはこれが最後です。

最後の機会に皆さんが、他の学校ではなく、この所沢高校を卒業することの意味を、一緒に考えたいと思います。

皆さんがここで過ごした平成 29 年 4 月から今日までの 3 年間は、学校創立 120 年を挟む前後 1 年ずつ、平成から令和への時代の変わり目でもありました。

皆さんは学校の長い伝統を引き継ぎ、新時代の第 1 歩を踏み出す役割を担ってきました。

本校に遅れること 1 年、今年度、県立川越高校と春日部高校が 120 年を祝いました。私は 11 月に川越高校の記念式典に出席しました。

埼玉県第三尋常中学校、いわゆる旧制中学として設立され、ずっと公立のエリート校の道を歩み続けてきた川越高校の輝かしい歴史に触れ、式典後には OB でノーベル物理学賞の梶田隆章教授の講演を聞きました。

一方、本校では一昨年の創立記念日、10 月 11 日にここで記念行事を行いました。

私は 19 世紀末 1898 年から 3 つの世紀にまたがる本校の歴史を紹介し、その 120 年を波乱万丈、紆余曲折のサバイバルの歴史と形容しました。

同じ埼玉県西部に、ほぼ同時期に、県内 4 番目と 5 番目に産声を上げた 2 つの中等教育学校それぞれの 120 年は、共通点よりコントラストが際立つものと私は感じます。

明治 31 年に創立された、本校の前身である共立英和学舎は、英語教育を重視し現在でいうグローバル人材の育成を目指した男子の普通教育を行う小規模な私塾のようなもので

した。

その18年後、大正5年に所沢小学校の中に裁縫を中心とした実学系の公立の女学校が作られました。

この2つが合流し、現在の男女共学、普通科の県立高校となるまで、本校が名乗った学校名は実に13におよびます。

男子の共立英和学舎、女子の町立所沢実科高等女学校に始まる13の学校名には、実科、実業、実務、商業、工業などの言葉が含まれます。

この学校で行われた教育が普通教育から様々な実学系に変わり、再び普通教育に戻ったことを学校名の変遷が物語っています。

学校が置かれた場所、校地はここが7箇所目。経営主体は複数の出資者による共立から私立、そして所沢町立・市立をへて埼玉県立となりました。

本校はそうやって劇的に姿を変え幾度の危機を乗り越えて、明治、大正、昭和、平成の日本を生き抜き、令和の時代を迎えています。

適者生存。強いものが生き残るのではなく、環境に応じて自らを変えられるものが生き残るのだと、生物学は教えています。

120年のサバイバルを経て、さらに進化を続けるこの学校のDNAを、皆さんは体内に宿してここを巣立っていきます。

世界のどこに行ってもそこに根を下ろし生き延びてゆく力があると私は信じています。

学校名も教育内容も変えながら、創立以来、変えずに守り続けてきたものがあります。自主自立の精神です。

共立英和学舎の入学者心得において、生徒に求められたのは、自ら学ぶ姿勢、自律的な学びです。

今年度、121年目の新たな一步を踏み出すにあたり改定した「目指す学校像」には、自主自立の伝統に加え、「多様性を尊重し他者と積極的に協働すること」を掲げました。

互いの個性を認め合い、時には助け合うこと、力を合わせて共通の目的に向かうことは、これからの社会でますます重要です。

ウイルス感染の拡大防止はいま私たちの共通の課題です。

皆さんも今後の人生で自分の力だけではどうにもできないことに何度も直面するでしょう。

自主自立は孤立するための力ではありません。他の人と連携してより大きな力を発揮するための前提です。

いまここに同じ学校で同時代を過ごした 359 名の仲間がいます。出席できなかった 718 名の後輩たち、心から門出を祝う教職員がいます。社会に出れば 2 万名をゆうに超える先輩たちがあらゆる分野で活躍しています。

高校は人と人とを緩やかに結ぶ紐帯でもある、120 周年の行事でそんな話をしました。本校の同窓会をはじめとする人的ネットワークは、皆さんが共有する無形資産です。

助けがほしいとき、喜びを分かち合いたいとき、あるいはただなんとなく、連絡をとれる繋がりがあはることは、皆さんの人生を少し温めてくれます。

さて、皆さんは在学中に全員有権者になりました。去年は統一地方選、参院選、県知事選と選挙が続き、多く人が投票の機会を得ました。

最後に、皆さんより先に生まれたいち市民として同じ有権者として、伝えたいことがあります。私たちはこの先、面倒くさがらずに複雑さと向き合っていかなければならないということです。

環境問題をはじめとする人類共通の課題、そして皆さん個々人が人生で直面する様々な困難も単純に割り切れるものではありません。安直に正解を求めても解決しません。

対立と分断を煽る、極端で分かりやすい主張には注意が必要です。

所沢高校で学んだ皆さんには、多面的で複雑な事柄に向き合っていける知力があります。

人生はセンター試験のように用意された正解がある択一式ではありません。それぞれの人生 100 年のストーリーを自分で描いてゆく。途中で書き損じたら書き直せばよい。失敗したらやり直せる人になりましょう。

所沢高校を卒業する皆さんの人生には、失敗より必ず多くの成功があると、私は信じています。

卒業おめでとう。

令和 2 年 3 月 12 日

埼玉県立所沢高等学校 校長 曾根 一男